

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	伊那市立伊那中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	16	42
生徒数	157	158	130	17	445	

研究の概要

1. 研究主題

できた喜びを多く味わえるための指導はどうあったらよいか

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2年生・国語
生徒の音声表現への態度が一番変化していく学年であるため。
- ・ 2年生・数学
習熟度別学習・少人数学習の両面を学習形態として実践している教科であるため。
- ・ 3年生・英語
習熟度別に実践を進めてきたが、実態から、発展的な学習における教材開発や指導方法の工夫が必要と考えたため。

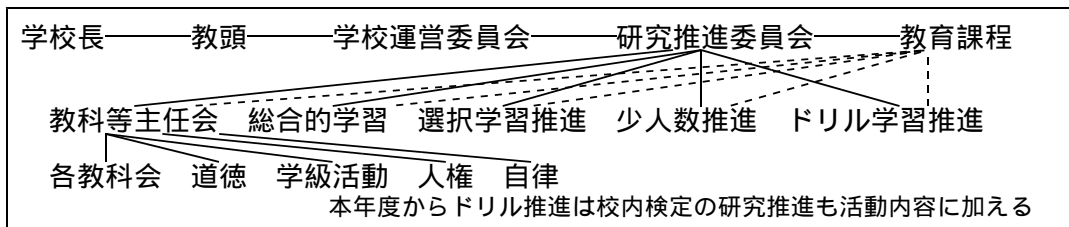
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ できた喜びを多く味わえるための指導はどうあったらよいか</p> <p>研究の見通し</p> <p>1 生徒の学力実態調査と指導の重点の決めだし</p> <p>2 少人数・コース別授業の実践</p> <p>3 選択教科の充実</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1 平成12年度小・中学校学力実態調査（長野県教育委員会）を実施して実態を把握。数学では、関数領域がやや弱く、英語では、少し長く、早いスピードの会話の要点の聞き取りが課題。学年が上がるごとに無答の率が増える。知識・技能面だけでなく、意欲・関心面からも、重点分野の指導方法や教材開発が必要。</p> <p>2 数学科で1学年・2学年の6月まで少人数学習。2学年の6月以降を習熟度別学習で実施。英語科は3学期から実施。両教科、2クラスを3コースに分けて実施。基礎的・標準的・発展的どのコースにおいても、アンケートでは、「(このような学習形態が)よくない」と考える生徒は1人もいない。「自分にあった速さで進められる。」など肯定的にとらえる生徒が基礎的コースで78%・他のコースで60%を超えた。</p> <p>3 1年は音・美・体・技・家から1講座選択30時間。2年生は、国・国・社・数・理・英から1講座35時間、音・美・体・技・家から1講座選択35時間計70時間。3年は国・社・数・理・英・英から2講座70時間、音・美・体・技・家から1講座選択週2時間70時間計140時間。前期後期の2期制でそれぞれ選択を変える。理科の自由研究は通期で選択。</p>
	<p>テーマ できた喜びを多く味わえるための指導はどうあったらよいか</p> <p>研究の見通し</p> <p>1 生徒に「つける力」が確かに定着する教材の開発</p> <p>2 個に応じた指導のための指導方法の工夫・教育課程の工夫</p>

成 15 年 度	<p>3 生徒が自らの力を実感できる評価の工夫 研究の内容・方法</p> <p>1 平成14年度に把握した実態から、重点を置く領域・単元に関連した教材を開発した。国語では、学級指導と関連した職業体験学習を題材にした音声表現単元。数学では、知的好奇心を刺激し、連立方程式を解かなければならないような教材。英語では、総合的な学習と関連の濃い教材文で、生徒が見聞きした資料を教材化。</p> <p>2 国語・数学は朝の15分間ドリル。さらに、国語・数学・英語は校内検定を独自で定めて年12時間実施し、基礎・基本の定着をはかる教育課程の工夫を行った。国語ではスピーチ内容を3つのキーワードにしぼり焦点化。数学では、追究方法をグラフ・式・表から自分なりの方法で追究。英語はリーディングチャートで心情面まで表現する読み。</p> <p>3 国語は関連した全単元の自己評価カードに新単元の評価を書き加える方法。数学は自分の思考過程をフローチャートに表す方法。英語は相互評価も取り入れた自己評価の方法。</p>
-------------------	---

平 成 16 年 度	<p>テーマ できた喜びを多く味わえるための指導はどうあったらよいか 研究の見通し</p> <p>1 生徒・個に応じた評価規準の明確化と指導へのフィードバック</p> <p>2 ドリル内容・校内検定の選択と教科学習との有機的な関連。</p> <p>3 全体と個人追究、少人数学習と習熟度別学習で教材による適切な学習指導形態の工夫 研究の内容・方法</p> <p>1 実践を通して、本校の生徒・個人の力の見極めから、評価規準を見直し、その子にとっての基礎・基本の確実な定着をはかる。</p> <p>2 自分の力をつかみ、自分の願いと結びつけながら、自ら進めるドリル学習と校内検定のシステム作り。さらに、教科学習との有機的な関連が図れる工夫。</p> <p>3 同一単元の指導段階に応じて、少人数学習と習熟度別学習の適切な使い分けによる力の定着。個の課題を生かしながら、個人追究と共同追究の適切な関係、学習指導の共通基盤作りの見極め。</p>
------------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>1 ドリル・校内検定 国語・数学でドリルをし、本年度から新たに国語・数学・英語で校内検定を実施し、基礎的な知識が定着した。平成14年中学2年に漢字書き正答率71%（長野県69.9%）漢字読み正答率67%（長野県60%）が平成15年中学3年進級後、漢字書き正答率84%（長野県79.9%）漢字読み正答率73%（長野県66%）</p> <p>2 教材の開発・指導の工夫・評価の工夫 例 英語では、少し長く、早いスピードの会話の聞き取りが課題であること、音読の不足によるコミュニケーション活動への不安や自信のなさを改善しようと、修学旅行で被爆者体験を聞いたことに関するShin's Tricycleを教材化。教師の音読指導が変化に乏しかったため、リーディングチャートを使って音読を追究。 K君はResd&Look Up・Shadowingのあとに、リーディングチャートにまず、ポーズに注目して斜線を引いた。 So / I was cleaning up my house / and I found this tricycle.// 長めの文をまとめて読み表したいという願いである。さらに、and I foundの部分に記号を書き込み、これを小さいまとまりとして意欲的に音読。</p>
--

生徒の価値観や情感が揺さぶられるような題材の教材化が関心・意欲を高める。個の願いがわかりやすく視覚化されたりその子なりの追究方法が用意されたりする指導の工夫、教師や級友の評価を交えて自己評価する方法は、自信を持ち、充実感を持ちながら、課題が比較的是っきりもてる。

2. 今後の課題

- 1 生徒・個に応じた評価規準の明確化
生徒の関心・意欲も大切に教材開発を行ってきたが、つける力が定着するかどうかの見極めが不十分であった。評価規準を明確にしつつ、適切な教材開発を行う。1時間の授業内だけでなく、子どもの充実感や課題から数時間にわたって連続的に評価と指導のあり方を追究していく。
- 2 ドリル内容・校内検定の選択
ドリル学習や校内検定が基礎的な知識の定着に有効であった。そこで、来年度は、個の願いに即して自ら選択し、主体的にこの学習を進めていきたいと考える。望ましい自己選択と適切な問題作成・決められた時間内で多様な選択に応える実施の方法などを探り、学力の向上を図る。
- 3 教材による適切な学習指導形態の工夫
個に応じた指導への指向が強かったため、本年度は個人追究が多く、他との適切な関わりや共同追究についての指導が弱かった。また、数学・英語などは、いったん習熟度別の学習形態をとると、そのままの領域・単元においても同じ学習形態で指導していた。それぞれ学習指導形態のよさが、子どもの学力定着に結びつくように、どこでどのような学習形態にするか研究を深める。

学力把握のための学校としての取組

国語・数学・英語に関しては、7月に平成12年度小・中学校学力実態調査(長野県教育委員会)を実施し、同一問題で1年間の変容の状況、前年度までの学年傾向や県平均との比較により、その年度の学年や個人の重点的に指導する領域・分野のきめ出しを行う。また、各教科年4時間(年間計12時間)校内検定を実施し、基本的な知識の定着について生徒も指導者もわかるようにしている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地域の義務教育関係教職員・保護者を対象に、9月18日(木)に伊那中学校で学力フロンティア2年次公開を長野県教育委員会の指導の下に開催した。国語・数学・社会の他に、発展的指導として2年選択理科・1年選択音・美・体・家・補充的指導として2年選択社会の授業を公開し、授業を通して、教材の開発や指導方法の工夫・評価の改善の研究を深めた。
長野県教育委員会伊那教育事務所の指導を受け、公開教科ごとA4版1枚の研究成果のリーフレットを作成。地域の学校に配布。研究成果普及のためのHPは次年度前半に作成予定。
国語・数学・英語の授業者は、地域の教職員の研究会にて、レポートによる発表をし、成果を広める。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無